資料３-１

第６次荒尾市総合計画(仮称)の将来像(案)及び重点戦略(案)について

市民と行政等で目指すまちづくりの方向性を共有するため、本市の強みや市民ニーズをはじめ、第２回荒尾市総合計画審議会において報告した「新・第５次荒尾市総合計画」の成果検証結果、我が国や本市を取り巻く社会情勢の変化などを踏まえ、「第６次荒尾市総合計画(仮称)」の将来像を設定する。また、効果的に計画を推進するための政策横断的な指針として、重点戦略を設定する。

■我が国を取り巻く社会情勢（時代の潮流）

・人口減少・高齢化社会の進展
・東京一極集中の加速化と地方創生の展開（第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」）
・人手不足や担い手不足の深刻化
・自然災害の頻発
・情報通信技術の革新（Society5.0）
・入管法の改正による国際化の進展
・持続可能な社会の実現（SDGs の推進）
・関係人口（定住に至らないものの、特定の地域に継続的に多様な形で関わる人口）の重視

■荒尾市の状況

・人口減少の継続（転出超過の拡大）と高齢化率の上昇
（消費低迷による地域経済の停滞、税収の減少による行政サービスの低下、水道やごみ収集、公共施設や公共交通の維持など行政コストの増大、空き家や空き地の増加による景観・治安の悪化、コミュニティ活動への影響、などが懸念される）
・出生率の改善
・持続可能な地域経営に向けた取組み（行政経営計画策定・地区担当職員制度開始）
・南新地土地区画整理事業による中心拠点の再生
・エネルギーの地産地消の推進（石炭のまちからエネルギーのまちへの転換）
・新市民病院の建設推進

■将来像(案)

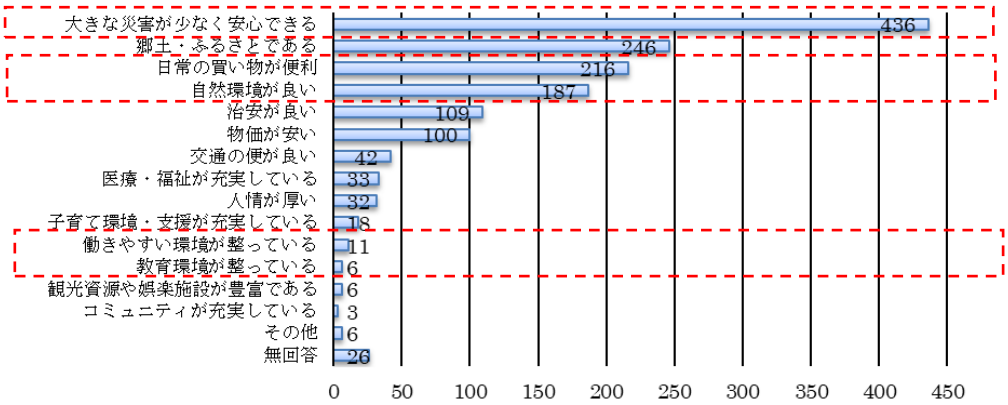
○本市の強み・市民ニーズ（荒尾市での暮らしに満足している理由）

・地理的優位性（福岡・熊本都市圏をはじめ、九州各都市へのアクセス条件に恵まれている）

・自然環境と都市機能のバランスの良さ（日常の買い物の利便性や良好な自然環境の両立）

・大きな災害が少なく安心できること

【荒尾市での暮らしに満足している理由（H30 まちづくりアンケート）】



・働く場や教育環境に関する評価が低く（雇用吸収力が高い大企業や高校が少ないことなど）、通勤先や通学先については、市内在住者の約半数が市外に通勤しており、市内中学校卒業者の 7 割弱が市外に進学・就職している状況

→周辺市町における雇用・教育環境が充実していることと、そこに通勤・通学するためのアクセス環境が優れていることを本市の強みと考える

○将来像の検討に当たっての考え方

・経営資源が限られる中、本市の強みを生かしたまちづくりを行うことで、将来展望人口の実現を図ることとする

・本市の強みとして「暮らしやすさ」に着目し、市外への通勤・通学であっても、居住地としては本市を選んでいただけるような、居住地としての魅力が高いまちを目指す

・「暮らしやすさ」を体現するものとして、

①先端技術や情報通信技術の積極的な活用であらゆるモノや情報が「つながり」、新たな価値を生み出し、暮らしの利便性を高める（Society5.0）こと

②人や地域コミュニティなどの従来からの「つながり」を維持・充実させることで、暮らしの安心感を創出すること

を併せて目指すこととする。

○将来像(案)　　人がつながり幸せをつくる　快適未来都市

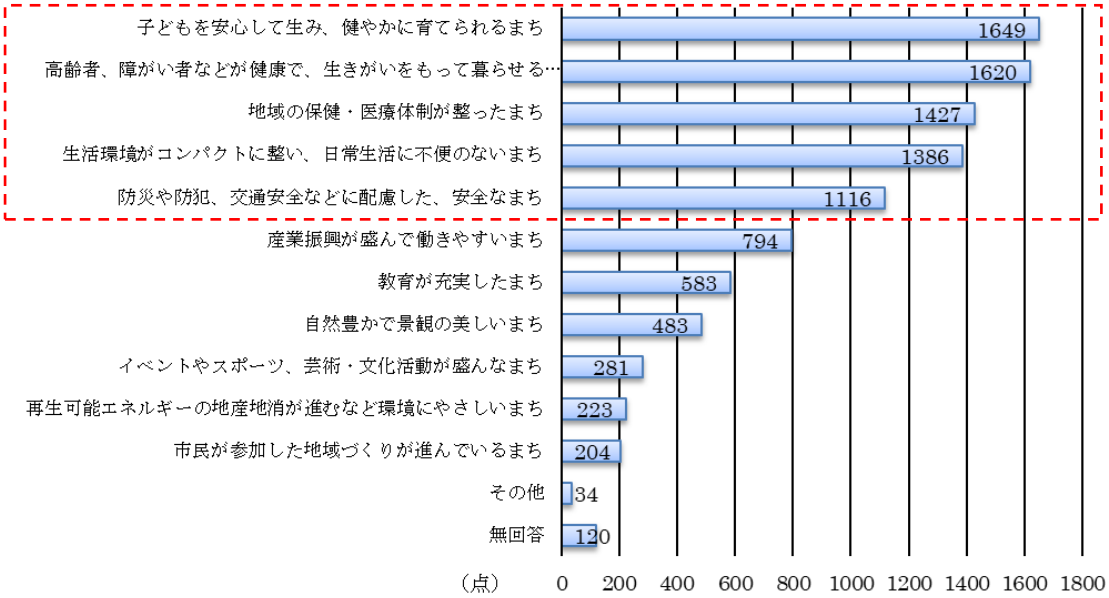
■重点戦略(案)

○市民ニーズ（今後重点的に取り組むべき政策）

・子どもを安心して生み、 健やかに育てられるまち
・高齢者、 障がいなどが健康で、生きがいをもって暮らせるまち
・地域の保健・医療体制が整ったまち
・生活環境がコンパクトに整い、日常生活に不便のないまち
・防犯や防災、交通安全などに配慮した、安全なまち

※キーワード：「子ども」「高齢者・障がい者」「生きがい」「健康」「利便性」「安全安心」

【荒尾市が今後重点的に取り組むべき政策（H30 まちづくりアンケート）】



○重点戦略の検討に当たっての考え方

（従来の指針）※「まち・ひと・しごと創生」の取組指針

・「ひと」の創生：教育や子育てなど子どもへの投資を強化する「みんなで育む『人づくり』」と、健康長寿の暮らしを実現し誰もが活躍できる「みんなで築く『安心づくり』」
・「しごと」の創生：安定した雇用の創出や経済の活性化を図る「みんなで挑戦『夢づくり』」
・「まち」の創生：「ひと」と「しごと」の好循環の支えとして未来志向の都市モデルを再構築する「みんなで創る『街づくり』」

（深化のポイント）

・市民ニーズも踏まえ、大きな災害が少ないことやコンパクトシティの利点を最大限生かしながら、目まぐるしく進歩する先端技術（センサーや IoT、AI など）を活用し、便利で暮らしやすいまちをつくる「『まち』の創生」に積極的に取り組む
・「子どもへの投資」を継続しつつ、高齢者や障がい者などを含めたあらゆる市民が生きがいをもてるよう「健康づくり」や「生涯学習」の要素を新たに加え、さらなる「『ひと』

の創生」に取り組む

・「まち」と「ひと」の好循環を下支えするものとして「経済の活性化」や「所得の安定」を位置づけ、起業など夢の実現に向けた支援を含め「『しごと』づくり」にも取り組む

○重点戦略(案)

① 先端技術の積極的な活用により暮らしの利便性を高める一方で、地域コミュニティの充実を併せて推進することで暮らしの安心感を創出し、まちの魅力を高める「『まち』の創生」

② 妊娠から出産、義務教育・高等教育までの一貫したサポートで子どもを産み育てやすい環境をつくるとともに、子どもから高齢者まであらゆる市民が健康で生きがいをもって生活できるようにする「『ひと』の創生」

③ 経済の活性化により安定した暮らしを守るとともに、起業など夢の実現を応援する「『しごと』の創生」